◇平成28年／2016年9月号 第85号◇

フジサンケイグループ

# 会報 産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION

上 高円宮賞を受賞し、高円宮妃久子殿下から賞状を贈られる多田游硯先生（7月26日、明治記念館）
下 開幕式：左から田村政晴副会長、伊藤欣石名誉理事長、風岡五城理事長、熊坂隆光社長、
田中鳳柳最高顧問、齋藤香坡最高顧問、生田博子副会長、岩田正直副会長（7月25日、東京都美術館）

産経新聞社
事業本部長
伊 藤 富 博

## 新体制で新たなスタート

皆様、初めてご挨拶申し上げます。

私は本年６月23日付けで、前任の鈴木裕一に代わりまして、産経新聞社事業本部長および産経国際書会会長代行に就任いたしました。また、吉井雄二に代わり、福本雅保が会長代行に就任し、事務局長の粂雅人とともに新たな体制で、産経国際書会の運営にあたる運びとなりました。不慣れなことは多々あると思いますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

本年は、皆様方のご協力もいただき、最大の課題であった会員数や出品数の著しい減少傾向に歯止めがかかりました。しかし、まだまだ安心できないのが実情です。そう言った中で明るいニュースもあります。今年のジュニア書道コンクールの出品数が昨年に比べて、約1,000点増え、8,500点近くになりました。若い世代が興味を持って出品いただくことは誠にありがたいことです。

私どもも皆様と意見交換を重ねながら、これからの産経国際書会のために何をするべきなのか、何ができるのかを自問自答し、熊坂社長が常々申しております新聞社と書会は車の両輪、という言葉を肝に銘じて、書会のあり方を模索していきたいと思っています。

最後になりますが、風岡五城理事長はじめ、書会執行部および会員の皆様方のご尽力をいただき、産経国際書会の魅力を一層、高めてまいりますとともに、来るべき第35回展にむけて、新たなスタートを切りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

産経国際書会
理事長
風 岡 五 城

## 若手の育成は書会の使命

第33回産経国際書展において入賞・入選を果たされた皆様には、まずもって心よりお祝いを申し上げます。また開催に向けてご尽力いただきました役員並びに関係者の方々には厚く御礼を申し上げる次第です。

開催を前にして近年の出品点数の減少傾向が気掛かりでしたが、今年はそれほどの落ち込みはなく、部門別に見ればU23の部では昨年比倍増という結果になりました。産経も高齢化が進む中で将来に期待の持てる嬉しいニュースです。書の文化を次代に繋げる若手の育成は、書会の使命の一つとして今後ますます重要度が高まっていくことでしょう。そして単に出品増を図るばかりでなくそれに見合った有効な対策を講じていくことが大事なことになると思います。

先輩諸先生方のご尽力によって33年の歴史を刻んできましたが、今まさに創立当初の世代から第二、第三世代の時代に入っています。作品の傾向も少しずつ変化を見せています。二年後には35回の節目を迎えるこの時にあたり、書会一丸となってさらなる飛躍を目指そうではありませんか。今のままでいいというのは己の力を自ら限定することです。オリンピックでも銅メダルを目指していたのでは銅メダルどころか決して金メダルは取れないでしょう。志を高く持つことが肝要です。

東京での本展は盛会裡に終了しましたが、この後東北、瀬戸内、関西、中部と地方展が続きます。各地でも大いに盛り上がることを期待しています。

# 第33回 産経国際書展

7月25日(月)～7月31日(日)
東京都美術館

祝賀会にて(前列左から内閣総理大臣賞の原田圭泉先生、高円宮賞の多田游硯先生、高円宮妃久子殿下、田中鳳柳先生、後列左から風岡五城理事長、齋藤香坡最高顧問、村越龍川最高顧問、伊藤欣石名誉理事長)

第33回産経国際書展は、東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で7月25日(月)から31日(日)まで開かれた。総出品数は昨年とほぼ同数の6,019点だった。特徴的だったのは昨年から力を入れてきたU23の応募者が約200点と大いに増えたことだ。同じ夏に開催している「産経ジュニア書道コンクール」の応募数も約1,000点増えるなど各先生方の若年層に対する働きかけが効を奏している。これからは、ジュニア展の出品者をいかにして本展U23への出品へと誘うかに知恵を絞りたい。ジュニア展の成績優秀者には本展の出品料を割引、またはいっそのこと無料とするなどの施策も一考に値するのではないだろうか。

今年の高円宮賞は多田游硯常務理事、内閣総理大臣賞は原田圭泉常任顧問が受賞した。かな作品が高円宮賞を受賞するのは初めて、女性が内閣総理大臣賞を受賞するのも初めてと初尽くしとなった。また、今年は高円宮妃殿下から「輪」と「歓」の二文字の御題を頂戴し、80歳以上の会員による色紙展を開催した。今回は72人から応募があり、あらためて書会の御長寿パワーを内外に見せつけた。

賑わう会場

来年度の展覧会(第34回産経国際書展)は、平成29年7月27日(木)から8月3日(木)までの8日間、東京都美術館ロビー階と1階の第1～第4展示室(計8室)で行う。31日(月)が展示替え。また、贈賞式・祝賀会は明治記念館で8月1日(火)午後4時から行う。さらに、「2017産経ジュニア書道コンクール」も同会期で、2階第4展示室で行われる。(事務局)

# 第33回 産経国際書展

## 第33回産経国際書展を終えて

実行委員長　田村政晴

不安を抱えてお引き受けした責務を、何とか大過なく終えることができました。これは偏に事務局、審査部をはじめ各部の部長・部員の皆様のご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

開催要項の作成から始まる一連の行事を振り返るとき、改めてこれまで積み重ねてきた産経国際書会の組織の力を感じました。とりわけ展覧会場の運営に加えて、ギャラリートーク・講演会・席上揮毫等一連の企画が効を奏し、出品者のみならず来場者を巻き込んだ、参加型の書展の色彩が強くなりました。この試み・企画が進化することにより、書展の展望は大きく開けることと思います。35回記念展を目前に、心強く感じました。

高齢社会が進む中、魅力ある書展として存続するには、どうしても若者の参加は最大の課題です。書道界では若者はどうしても若い指導者につきます。組織をはじめ書展運営に若い力を頼りにするときと考えます。出品者増を望むとき、避けて通れません。また、U23の出品者が大きく伸びたことは、大きな励みとなりました。更なるこの分野に対する広報活動が望まれます。

反面、社中指導者の高齢化が進み、社中における世代交代がうまくいかず、社中存続の危機が懸念される話も耳にします。地方展における出品社中の実態把握と課題の取り込みを急ぐ必要があります。

作品の質の向上はいつも口に上ります。上記のことを含め、地道な努力が求められます。

会場受付

高円宮賞、内閣総理大臣賞

色紙展「輪」と「歓」

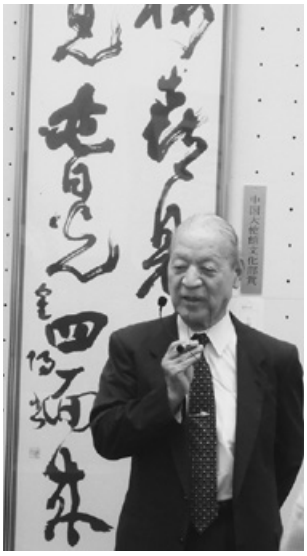
# ギャラリートーク（7月25日）

企画部長　岩村　恵雲

ギャラリートークも今年で3回目を迎えることになった。進行役は今年度から企画部担当に就かれた金丸鬼山副理事長。ギャラリートークは先ず風岡五城理事長の挨拶とお祝いの言葉に続き高円宮賞受賞の多田游硯先生、内閣総理大臣賞受賞の原田圭泉先生、中国大使館文化部賞受賞の上野鶴陽先生、産経国際書会会長賞受賞の加藤松亭さん、山本てるみさん、国際大賞の堀川梨華さんの順で6名の受賞者によるトークが行われた。各先生の書歴から制作の意図と苦労話、用紙、墨など各々が工夫してきたエピソードを交え、私たちが書制作する場合に大変参考になるお話しを伺うことができた。

トークの後には進行役の金丸副理事長に促され、会場から様々な種類の質問があった。作品制作にあたってどのような古典を勉強したのか、どのような体勢即ち、立って書くか、中腰で書くか、机の上で書くか、床で書くかなど制作に直接役にたつ質問が交わされた。100人を越える参加者が熱心な意見を交わし、会場に熱気が籠もり暑さを感じた。

いざ、ギャラリートーク



中国大使館文化部賞の上野鶴陽先生

会長賞の加藤松亭さん

会長賞の山本てるみさん

国際大賞の堀川梨華さん

# 第33回 産経国際書展

## 書道講演会 企画部　北野香春

**日時　平成28年７月27日（水）**
**会場　東京都美術館講堂**
**演題　「筆のはなし」**
**講師　久保田哲暁（一休園会長）**

久保田会長

第33回産経国際書展が東京都美術館で開催される中、７月27日、同講堂で広島県熊野町で筆作り90年の一休園の久保田哲暁会長による「筆のはなし」の講演会が行われた。

初めに風岡理事長による開会の辞で風岡先生のご自分の経験から筆を購入する時、お弟子さんには自分の予算より少し上の筆を買いなさいと勧めているが、今日はどういう筆を選んだらいいのか教えていただきたいと話された。出席者は100名ほどで筆にこだわりのある先生方も多数興味深く参加して頂けた。

最初に久保田会長は筆の話の前にゴルフの道具に例えて「書」を書いていて何か上手くいかないなと思った時は筆を替えてみて下さい、ゴルフの場合も道具を替えて良い成績を得られることがありますとの話をされた。

講演はまず筆の原毛の話から始まり、種類は沢山あるが特に使われるのは「羊毛」「イタチ毛」「馬毛」の３種類が主であって純羊毛の筆もあるがタヌキ毛と馬毛を混ぜた兼毫筆は弾力があり墨含みも良い。意外だったのは普段私たちが羊毛と思っていたのは山羊の毛だったということ。中国の羊毛は生地に使うので筆には山羊の毛を用いるのだ。更に最高の筆といわれるのは「細光鋒」で山羊の首のまわりの毛を用い弾力は少し弱いが線にスピード感が出るので書家に好まれ値段も非常に高い。

筆さまざま

良い筆の見分け方として「円、斉、尖、健」の四徳という言葉があり、良い筆は簡単に言うと毛が細やかで筆先の毛を折り曲げたとき硬い毛が飛び出さない、筆先に切れた毛が混ざっていないのが良い筆の条件である。そこで久保田会長より筆の見分け方を皆さんに体験して値段を当てて頂きたいと提案があり、二本の筆の見本を会場に廻して値段あてとなった。結果は高い方が15,000円、安い方が6,000円という事で、両方当てた人はなく片方だけ当てた男女２人がジャンケンでそれぞれ１本ずつGetした。

最近中国では小学生の習字が必修科目になり中国では小学生だけでも１億人、従って、中国国内需要が多くなり原毛が高騰、日本への供給は少なく値段もかなり高くなっている。書道家にとって身近な問題だけに切実な事態である。その他に筆の寿命は上質な筆で５年、墨が軸の根っこに入って割れてしまったのや筆先がハサミで切ったように揃ってしまい命毛がなくなり纏まりがなくなったのは終わりですとの事でした。

# 揮毫会（７月30日）

企画部担当副理事長　金丸鬼山

第33回展の最後のイベントである揮毫会が７月30日（土）、200名を超す見学者のなか、屋外の猛暑に負けない熱気に包まれ行われた。今回揮毫をお願いした先生は、海游舎会長でもある山下海堂名誉顧問と今回展で内閣総理大臣賞に輝いた、臨泉会会長代行の原田圭泉常任顧問のお二人だった。

開始時間は午後１時半だったが両先生は大分前より支度を整え準備万端の御様子で進行役の小生が焦ってしまう感じだった。山下先生は、李白と韋應物の五言律詩20字を二尺・八尺紙に行草で、また、三尺・八尺紙に四言句２点、最後は全紙に「修羅」「心痛」の２字を一気に書き上げ、その力強さとテクニックに見学者を圧倒、暑さを忘れさせるほどだった。

引き続き伝統書から現代書の原田先生にバトンタッチ。まずは淡い墨色で二尺・八尺紙に一気に「百華燎乱」、休む間もなく三尺・六尺紙に「暁」を書すと、二尺・八尺紙に今展受賞作品の文言「鳥歌花舞」を、更に三尺・六尺紙に「舞」と「聲」の２点、墨色を生かした素晴らしい書作を披露して下さった。現代書の場合、字数が少ない上、運筆が早いため短時間で揮毫が終わってしまう傾向があり、原田先生書作の合間に山下先生が筆墨を借り書作する特別演出もあった。この様な楽しい学書も終わり近くになった時、二人の揮毫を最前列で見守っていた臨泉会会長で原田圭泉先生の師であり、ご母堂の佐々木月花名誉顧問が書作したい衝動に駆られ飛び入りされ、「吐雲」二字をまさに卒意書、素晴らしい作品だった。御歳96歳とは思えない元気な書作に会場は大きな拍手に包まれた。

ご協力頂きました先生方本当にありがとうございました。

大ギャラリーの中で集中する山下先生

一気呵成の原田先生と見守る山下先生

飛び入りの佐々木月花先生

# 第33回 産経国際書展　部長報告

## 審査本部 公正・公明な審査を

審査本部長　村田白葉

今回審査本部長の大役を仰せつかり、前回展の反省を踏まえ、各部門の審査がミスなくスムーズな進行を実践すべく、事前の作品チェックに最新の注意を払う様、部員の方々にお願いし、審査に臨みました。

お陰様で審査会は、大過なく無事に終了いたしました。ありがとうございました。

産経展は「４C」を理念に掲げており、特に審査には理念に基づいた厳正な審査をして頂きました。審査員の先生方には、大変お疲れ様でした。また、連日スムーズな進行と作品整理をこなした部員の方々、ご協力頂いた搬出入部の方々、業者の皆様を始め、関係者の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

## 東京部会 活動が活発に

東京部会長　武富明子

第33回産経国際書展が終了しました。連日の暑さにも拘わらず、多くの方々がお見えになりました。オープニングは、熊坂隆光産経新聞社社長と書会の最高顧問、名誉理事長、理事長、副会長の８名で、沢山のカメラマンのフラッシュの中、華々しくテープカットが行われました。ギャラリートーク、講演会、揮毫会など全てのイベントも大盛況でした。

贈賞式・祝賀会には今年も高円宮妃殿下に御臨席賜り、幸福な宴を過ごせました。

産経国際書会が周知され、書会が今まで以上に活気づいている気がしました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。また、受付業務を担当して下さった方々誠にお疲れ様でした。更に検討を重ね努力してまいります。

## 図録部 第33回展図録部長として思う事

図録部長　今田篤洞

図録部長として初めての図録制作は、経験豊富な部員の方々の力のお陰で無事務めを果すことができた。

作業は台割、常務理事以上の作品の題名付け、初校、再校、念校の５回。従来の編集方針を踏襲しつつ、レイアウト、出品者の姓号、役職、作品の題名などにミスの無いように腐心した。特に姓号については、編集者の立場では1,000人の内１人の間違いでも、間違えられた人にとっては100％間違えられたことになるということを肝に銘じて作業した。名前の表示は出品票に忠実に表記した。齋藤、渡邊、髙橋などの姓、シンニョウの点の数など人により様々で神経を使った。姓号のほか、作品の題名、墨象作品の天地などは出品票を基に編集するので、出品票の正確な記入をお願いしたい。

## 搬出入部　表具店会議の重要性

搬出入部長　磯邊哲舟

募集要項によって集められた作品を表具店から受け取り、約120種類の分類を経て、審査部に引き渡すのが役目。今回からこの分類表示をパソコンで打ち出してもらい、事務の簡素化を目指しました。ここ２～３年前から今までの過酷な現場から余裕のある現場に変化しつつあります。

事務局のおかげで、人不足、時間不足が解消されつつも出品票等の正確性がまだ不足しています。

搬入事務をスムーズに進めるには、表具店はもちろん皆様の協力が必要なのです。ミスのない書類を提出してもらうには、改めて表具店会議の重要性を再認識いたしました。

審査が終わって、さあ返却だ！

## 陳列部　輝く書展に

陳列部長　山本晴城

第33回展開幕前日、24日（日）９時30分陳列部の先生方に会場へお集まり頂き、２班に別れ作業を開始。熟練された先生方のご尽力で予定時間内に終る。28日（木）、掛け替え作業も無事終了。陳列作業は、如何に書展を美しく立派に見せるかが使命である。今回も、チームワークの良さでその責務を果たせたと思う。最後に、幹部の先生方より、ご助言・ご指導を頂き感謝申し上げます。

メインの壁がピタリと決まりました！

# 高円宮賞

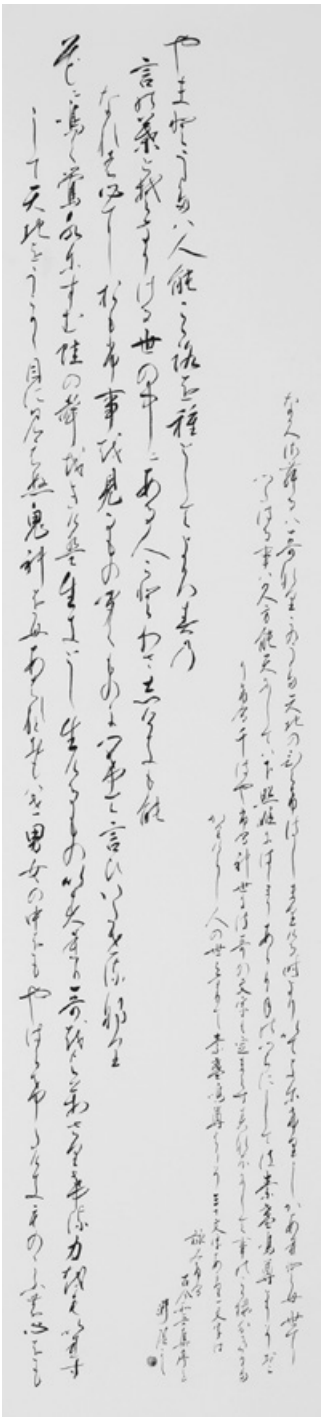
多田游硯　常務理事

## 書を通して世界仲良く

この度、思ってもみなかった高円宮賞という立派な賞を頂きましたことは、身にあまる光栄でございます。授賞式の壇上で妃殿下に「おめでとうございます」と声をかけて頂きました時は、人生で一番の幸せと思いました。

私は小さい時からお習字のお稽古を致しておりました。小学校でもお習字は盛んでしたが4年生の時の12月に第二次世界大戦が始まり、段々物資も紙も乏しくなり、庭で野菜を育て自給自足する事の方が大切、と言う時代になって行きました。そういう時代は二度とあってほしくないと思います。これから世界中の人が書道（カリグラフィ）を通して仲良くなったらどんなに良いでしょう。少しずつでもいいから実を結んでくれたらどんなに嬉しいでしょう。私も今まで師匠や先輩に教えて頂いたこと、身につけて来たことを後の人達にしっかり伝えて育てて行きながら楽しい老後を送ることが出来たら本望です。

産経国際書会が益々発展して行かれます様に、皆々様の御健康、御健筆を祈念いたします。



「古今和歌集序」

# 内閣総理大臣賞

## 原田圭泉　常任顧問

### すべての皆様に感謝

この度は大変大きな賞を頂戴しまして驚いております。これも偏に皆様方のご支援の賜と感謝申し上げております。顧みますと「第１回高円宮賞」は母･佐々木月花が受賞致しました。その時は唯々遠い上の賞というイメージでした。今こうして「内閣総理大臣賞」をいただいて、女性第１号という事と親子共々のビッグ賞の受賞にその重みを感じておりますと共に身の引き締まる思いでございます。

ご存知の方もいらっしゃるでしょうが、師は父･佐々木泰南でございます。そのため七光りならぬ十四光りと言われた事もあります。それなりに反発精神もおき努力はしてきたつもりですが、まだまだと痛感しておりますのでこの賞を受賞されている歴代の諸先生方と肩を並べたとは思っておりません。これからもガンバレというエールを送られたと思っております。私の環境を含めすべての皆様に感謝でございます。

この栄誉を糧として今後も私なりの身の丈にあった精進をして参りたいと思っております。主に黒の強い墨色で作品制作をしておりますが、青墨でにじみ、渇筆をおりまぜた作品にも挑戦したいと思っており、古(いにしえ)と現代を融合させたロマンのあるものが書ければ良いと願っております。皆様ありがとうございました。

「鳥歌花舞」

# 中国大使館文化部賞

**上野鶴陽　常務理事**

## 思い切った表現を目指して

この度、第33回産経国際書展において漢字部門高位の中国大使館文化部賞を受賞できましたことは、偏に審査員の先生方を始め、諸先輩の日頃からのご指導の賜と感謝申し上げます。私は本会創立以来、他団体にない４Ｃの精神のもとに運営されてこられた書会を会の一員として誇りに思っています。

今回の出品作は、遊春詞（令狐楚）14字を２行、行書を主にできるだけ過剰な誇張をせず、力まず、そして、臆せずに…。津金雀仙の「書は、書者の内面にあるものを表現できなければ…。」を胸に思いきった表現ができればと書作にあたったものです。

「学んで成らざるの項籍あるも、学ばずして成るの羲献なし。」

私は今後も更に古典学習を舞台裏の仕事として鋭意努力、そして、研鑽して自己実現に向けていくことを銘記致しております。

本会が益々発展し日本の伝統文化の書を将来隆盛にすべくその原動力になられんことを念じながらお礼のことばと致します。ありがとうございました。

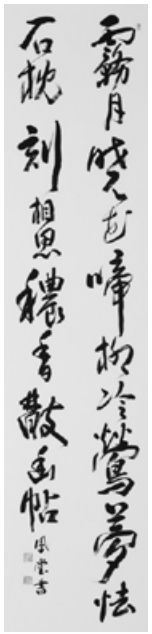
「令狐楚　游春詞」

# 韓国文化院長賞

**岩下鳳堂　常務理事**

## 受賞を感謝して

この度、名誉ある韓国文化院長賞を受賞させて頂き誠に有り難うございました。謹んで心より感謝申し上げます。これも偏に審査に当られた先生方始め、役員先生方には大変お世話様になりました。今回出品した作品を書き始めたのが、二ヶ月間入院し病み上りの直後の為、なかなか手足も良く動かず大変な思いで書き上げた作品でありますので、自分としては恥かしく皆様に見て頂ける様な作品ではなく、恐る恐る出品させて頂きました事を思い浮べます。図らずもこの様な立派な賞を頂き感謝しているところです。厳粛なる贈賞式に出席させて頂き、高円宮妃久子殿下御臨席のもとでの賞状を授与されました事は私の一生の想い出であり、残り少い人生での一番の冥土への土産が出来ました。これを機に益々書の道に精進努力して参る所存であります。今後共御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



「霧月暁花啼…」

# 第33回産経国際書展
# 受賞者　喜びの声

（敬称略）

## 伊達政宗賞　黄木孝一

この度の受賞、驚きと嬉しさでいっぱいです。これもよい師匠、よい仲間、家庭のお陰と感謝しております。國井誠海先生への報恩が出来ました。責任の重大さを認識し、精進に務めます。

## 産経国際書会会長賞　加藤松亭

この朗報を頂いた時、尊敬する師（風岡五城先生）への感謝と同時に「会長賞」の重みに強く緊張した事を忘れられない。今後は受賞を励みに一層の努力を決意して新たなスタートとし一歩ずつ歩みを進めていきたい。

## 産経国際書会会長賞　鈴木　蒼

この度は産経国際書会会長賞という栄誉ある賞を頂き大変光栄に思っております。また昨年の産経大賞に引き続いての受賞ですので、非常に驚いてもおります。今後も何卒ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

## 産経国際書会会長賞　山本てるみ

この度は思いがけず会長賞を頂き驚きと感謝の念でいっぱいです。故竹澤丹一先生、その後、世木田江山先生のもと自由に書ける面白さと厳しさを感じながら制作しています。今後も自分が驚くことの出来る表現に挑みたいと願っています。

## 産経国際書会理事長賞　小杉秀花

この度は師である原田圭泉先生の内閣総理大臣賞と同時に、大きな賞である理事長賞を頂き光栄です。基本の臨書はもちろん、形や線の面白さ、空間、にじみ等を追求していく現代書を楽しみ、今後も精進して参ります。

## 国際大賞　堀川梨華

国際大賞を頂き、村越龍川先生、ご助言頂きました諸先生方に感謝申し上げます。これからも、日頃師がおっしゃる“生き生きとした字”を求めながら地道にやっていきたいと思っております。ありがとうございました。

## 文部科学大臣賞　加畑理亜

この度は身に余る文部科学大臣賞を戴き誠にありがとうございます。ご指導頂いている先生方、支えてくれる家族への感謝の思いを忘れず、これを励みに自分らしい一字書を確立できるよう精進してまいりたいと思います。

## 外務大臣賞　法月秀峰

入賞の一報を受け村越会長の指導と書友の皆様の励ましと期待に何とか応えることができました。有難うございます。今後も人に感動を与える書を目指して行きたいと思います。

## 産経大賞　関口香雪

この度は身に余る賞を戴き、誠にありがとうございます。これも志字一燁先生、宏道書会諸先生方のご指導のお陰と深く感謝申し上げます。知識の乏しさに苦戦しながらの作品作りですが、この賞を励みに一層精進して参りたいと存じます。

# 第33回産経国際書展受賞者（敬称略）

**高円宮賞**　かな部門　多田　游硯（東京都）

**内閣総理大臣賞**　現代書部門　原田　圭泉（東京都）

**中国大使館文化部賞**　漢字部門　上野　鶴陽（栃木県）

**韓国文化院長賞**　漢字部門　岩下　鳳堂（埼玉県）

**伊達政宗賞**　現代書部門　黄木　孝一（山形県）

**産経国際書会会長賞**
- 漢字部門　加藤　松亭（愛知県）
- かな部門　鈴木　蒼（広島県）
- 現代書部門　山本てるみ（広島県）

**産経国際書会理事長賞**　現代書部門　小杉　秀花（東京都）

**国際大賞**　漢字部門　堀川　梨華（静岡県）

## 文部科学大臣賞

| | |
|---|---|
| 現代書部門 | 加畑 理亜 |

## 外務大臣賞

| | |
|---|---|
| かな部門 | 法月 秀峰 |

## 産経大賞

| | |
|---|---|
| 漢字部門 | 関口 香雪 |

## 産経準大賞

| | |
|---|---|
| 漢字部門 | 新井 翠風 |
| 漢字部門 | 内田 簀山 |
| 漢字部門 | 日野 翔鳳 |
| かな部門 | 大西 紫蓉 |
| 現代書部門 | 大久 恵華 |
| 現代書部門 | 三好 美江 |
| 臨書部門 | 大山 孝綾 |

## 無鑑査会員特別奨励賞

| | |
|---|---|
| 漢字部門 | 新井 大鳳 |
| 漢字部門 | 石川 梅華 |
| 漢字部門 | 塩川 翅龍 |
| 漢字部門 | 千田 嘉穂 |
| 漢字部門 | 日野 翔鳳 |
| 漢字部門 | 吉川 馨泉 |
| かな部門 | 曽根 小徑 |
| 現代書部門 | 河口 美櫻 |
| 現代書部門 | 白石 百合子 |
| 現代書部門 | 十川 桂舟 |
| 現代書部門 | 建部 紘子 |
| 現代書部門 | 藤木 八重子 |
| 現代書部門 | 山沖 春蘭 |
| 臨書部門 | 愛澤 奏剣 |
| 篆刻刻字部門 | 宇根 龍戒 |

## 太田道灌やまぶき賞

| | |
|---|---|
| 漢字部門 | 高橋 香鶴 |
| 漢字部門 | 中村 香風 |
| 臨書部門 | 井上 裕水 |

## 太宰府天満宮賞

| | |
|---|---|
| 漢字部門 | 別府 桂苑 |

## 無鑑査会員奨励賞

| | |
|---|---|
| 漢字部門 | 増田 美峰 |
| かな部門 | 本間 友雪 |
| 現代書部門 | 粉川 房子 |
| 臨書部門 | 小野 秀美 |
| 臨書部門 | 小野沢 竹峰 |

## 会友賞

〈漢字部門〉
安藤 佳舟　五十嵐 光泉　伊東 洋子　井上 醉生　植竹 幸子　岡野 彩雲
小川 翠玉　小野田 龍城　鹿島 彩風　下野 徑泉　髙崎 千蕾　出羽 雅陽
友野 美豊　早川 智心　肥田 紅華　細谷 紫水　松永 紫泉　向井 麗水
山下 蒼月
〈かな部門〉
井上 千津子　井上 壽子　加藤 欣遥　加藤 節子　河野 光映　光友 爽茜
〈現代書部門〉
赤間 裕子　飛鳥井 芳香　生田 京子　石嶺 友佳子　一ノ瀬 翠雲　伊藤 数馬
植田 清峰　大沢 玉鳳　大澤 苔翠　小野寺 祥子　笠原 浩義　加藤 翠苑
日下部 清華　佐々木 小扇　中村 未来　秦 祐子　村田 真梨子　山本 晶子
渡辺 千代恵
〈臨書部門〉
糸 久美子　金澤 紫苑
〈篆刻刻字部門〉
周 素九子

## 会友奨励賞

〈漢字部門〉　大平 美侑　日下部 峰鮮　小林 爽風　田口 瓊姫
〈かな部門〉　佐藤 香静　藤田 香江
〈現代書部門〉　佐藤 有光　佐藤 ゆき
〈臨書部門〉　出羽 雅陽　古田 蘭緋

# 一般公募・特別賞

## 東京都知事賞

〈現代書部門〉　千葉 道子

## 愛知県知事賞

〈漢字部門〉　三浦 玉華

## 産経新聞社賞

〈漢字部門〉　佐野 香翠　花井 萃川
〈かな部門〉　塩澤 鈴華
〈現代書部門〉　植田 拳　中村 青秀
〈臨書部門〉　森川 圭花

## フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉　渡辺 吾風　〈現代書部門〉　上釜 美由紀　〈臨書部門〉　大橋 栄美

## ニッポン放送賞

〈漢字部門〉　佐野 清風　〈かな部門〉　山崎 深翠　〈現代書部門〉　坪石 孝子

## 国際賞

〈現代書部門〉　渡部 大望

## U23 大賞

〈現代書部門〉　小野 由里彩

## U23 奨励賞

〈臨書部門〉　河野 明希　高井 美佑

# 夏期研修会

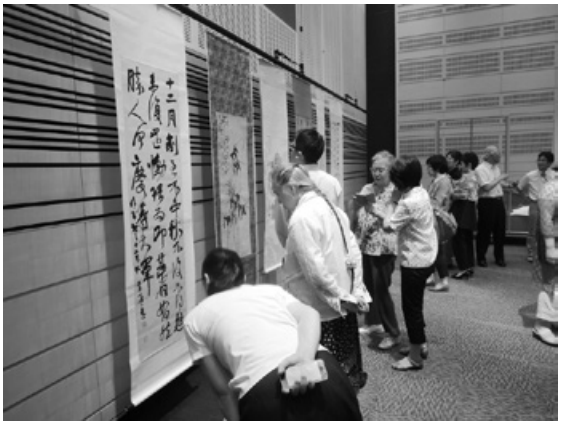
産経国際書会　2016夏期研修会
日時　8月20日（土）、21日（日）
場所　大手町サンケイプラザ

## 最高顧問講師陣ら　書の神髄を語る

研修担当副理事長　勝田晃拓

書義の向上と会員相互の交流を兼ねた上記研修会も今回で3回目。折しもリオ五輪で日本選手活躍の興奮冷めやらぬ中での開催。講師陣は最高顧問を中心に「書の原点」たる古典の重要性を独自の観点から紐解いた。なんとこの3先生は17年前、熱海の研修講師で一緒だった。先陣は岩浅写心副理事長が楽観できない「落款印の講義」を、午後は村越龍川、齋藤香坡両最高顧問が、「臨書のススメ」や「温故知新」の大切さを自身の書道人生と重ねて熱弁。「古典と真に向き合うことは家（家族）を守るのと同じだ」が魂に響く。時折ユーモアのある面では会場が大いに沸いた。翌日は青陽如雲常任顧問が「文字学」で図解を駆使し、書作時の誤字を一喝！次の田中鳳柳最高顧問が書会の今後あるべき姿をじわり法話し、持参した秘宝名品古典の数々も詳細に解説披露。聴講者らは鑑定団さながらの眼でじっくりとお宝（本物）の素晴らしさを堪能した。また特別メニューとして、持参作品講評も人気を集めた。会友以上の対象研修ではあったが、二日間で一般会員を含めなんと280名余が詰めかけ、楽しい懇親会と合わせこの研修に寄せる期待の大きさを改めて感じた。人は､美しさに心揺さぶられる。よい作品は、こういう地道な研鑽の積み重ねからしか生まれまい。ではいつやるか？今で書！実りの秋を前に、参加者らは更なる美しさの感動を求め、互いの研鑽と飛躍を誓い合った。

「さあ、押すよ」と岩浅先生



名作古典に魅入る参加者

熱気あふれる会場風景

## 【講座内容と講師】

| 日にち | 時間 | 内容 |
|---|---|---|
| 8 月20日（土） | 10：00〜10：10 | 開会挨拶　風岡五城理事長 |
| | 10：10〜12：00 | 岩浅写心副理事長「落款印、雅印のお話〜押す！」 |
| | 13：30〜14：30 | 村越龍川最高顧問「臨書の取り組み方いろいろ」 |
| | 15：00〜16：00 | 齋藤香坡最高顧問「私の初（書）体験」 |
| | 16：00〜16：30 | 参加者持参作品の講評会（村越、齋藤両最高顧問） |
| 8 月21日（日） | 10：00〜11：00 | 青陽如雲常任顧問「５時（誤字）から男返上！〜文字学」 |
| | 11：00〜12：00 | 田中鳳柳最高顧問「古典〜いつやるの？今で書論」 |
| | 12：00〜12：30 | 参加者持参作品の講評会（青陽常任顧問） |
| | 12：30〜12：40 | 閉会の辞　勝田晃拓副理事長 |

【会場】大手町サンケイプラザ 4 階ホール

村越先生、書く。

語る齋藤先生

お宝を前に解説する田中先生

持込作品の講評をする青陽先生

# 2016 産経ジュニア書道コンクール

教育部担当　副理事長
髙橋照弘先生

「2016産経ジュニア書道コンクール」は 8 月12日（金）から20日（土）、上野・東京都美術館で開催した。審査は 6 月29日（水）、30日（木）東京都美術館地下審査室で行い、贈賞式は17日（水）同館講堂で行われた。出品点数は8,389点で、前年7,464点に比べ917点の増となった。会員先生方のご支援ご協力のお陰と誌上をお借りし感謝御礼申し上げます。

東京都美術館へ移転し、課題がいくつかが出てきている。

①出品点数増加に伴い審査を円滑に進めるため準備期間のゆとり、作品開封処理のためなど人員の増。

②展示替えしても出品者全員の作品を展示できるか。

③審査員と実行委員の接点（一部は兼務）。

④審査員の固定化

①は事務局等、担当係りの作業量を軽減し、作品の仕分けを正確にし、審査を行えるようにする。②はジュニア展全員陳列の原則を維持できるか。③は展覧会は新聞社、実行委員、審査員それぞれ果たす使命役割があり、運営されているということ。現場において実行委員、審査員が縦割りとなり、相互の意見交換の機会がなく、展覧会を開催運営してゆく共通理解、一体感に乏しい。実行委員､審査員が双方の場に立ちあう等の必要性を感じる。④は100点を満たさないと審査に参加出来ない内規の見直し。社会状況､少子化等で塾経営､維持は大変な時代で苦労している。その中で出品し、参加をしていただいている塾は全体で 7 割近くになっている。累計で規定に達した塾はその時点で審査へ参加していただく。そうでなければジュニア展への意欲が後退してゆく恐れがある。審査員の固定化は価値観の固定化につながる。

新風を入れ形骸化を防ぐ活性化はジュニア展を一層発展させる。

会場風景

**審査委員…【顧問】**島村谿堂、**【審査委員長】**髙橋照弘、**【実行委員長】**眞田朱燕、**【審査員】**生田佳葉、泉芳秋、伊藤春魁、大谷芳雨、岡本杏華、小野左鵞、恩田峰道、影山瑤琴、加藤美玲、鴨田茜竹、小池雅游、興膳知子、小杉秀花、小林紫雲、佐々木天道、嶋津桃壽、田中春畝、田中龍渕、中西美蕙、中村雪鷺、長谷川明扇、星野葉柳、蓑口草川、三宅秀紅、宮平翠玲

文部科学大臣賞、おめでとう

よく書けました！（席上揮毫会）

## ◉特別賞

**文部科学大臣賞**　田澤宣尚（青森・田舎館村立田舎館中学校）
**ジュニア大賞**　田邊涼（福井・鯖江市中央中学校）
**東京都知事賞**　松尾たから（東京・荒川区立第四中学校）
**埼玉県知事賞**　髙橋穂乃（埼玉・富士見市立みずほ台小学校）
**千葉県知事賞**　齋藤奈央（千葉・市原市立石塚小学校）
**神奈川県知事賞**　新井奏音（神奈川・川崎市立玉川中学校）
**産経新聞社賞**　村上望華（熊本・合志市立西合志東小学校）、吉田千優（宮城・宮城教育大学附属中学校）
片野誠夢（群馬・渋川市立子持中学校）、鎌田恭輔（青森・青森市立浪岡中学校）
小野七未（青森・青森県立弘前高等学校）、川口凜々（宮城・宮城県宮城第一高等学校）
沖賀鈴音（愛知・聖霊高等学校）、林七海（岐阜・岐阜県立各務原高等学校）
馬場こころ（埼玉・聖望学園高等学校）、平田結万（埼玉・十文字高等学校）
**産経国際書会理事長賞**　佐野涼奈（静岡・富士宮市立東小学校）、網中陽菜（静岡・浜松市立初生小学校）
中村莉子（神奈川・神奈川県立横浜南陵高等学校）
飯野秀一（埼玉・埼玉県立越ヶ谷高等学校）、伊藤柚芽（新潟・新潟県立新潟南高等学校）
**フジテレビジョン賞**　芦澤結凪（静岡・富士宮市立大宮小学校）、衣笠深碧（大阪・大阪市立友渕中学校）
**ニッポン放送賞**　石黒佑佳（埼玉・入間市立武蔵中学校）、加藤芳望（愛知・小牧市立北里小学校）
**国際友好賞**　上原・アンナ・カロリーナ（ブラジル）、ディートレック空（米国）

## ◉ジュニア賞

**A部門**
相川鈴奈、阿部愛実、石井嘉乃、石塚貴大、石橋凜久、岡田才来、岡田悠里、岡村公太、小畑桃香、小原野々華、加藤琴、久保奈央、桑夢士、小林樹希、財賀祐作、酒井ちよ、澤田陽香、菅井夏帆、鈴木咲良、友澤心海、樴場弓子、福原由利菜、福森成実、古屋佳朋、村田士門、森迫桜、山地花音、山本栞、吉田来哉

**B部門**
相曽晴捺、有友瑞希、石橋理絵、石原明幸美、市川瑠菜、上田流羽、浦野芽公美、岡田萌和、川田茉侑、紅林優希、郷司日菜子、小林蒼月、佐々木夏香、佐藤てん、品澤もも佳、志村萌衣、関根優菜、高橋花奈、髙山莉彩、中島愛羅、仲田留菜、仲野愛、成田紗耶加、林美夢、番千晴、伏木ひより、別所花菜、松原萌香、三村唯月、本岡愛唯

## ◉いきいき賞

**A部門**
我妻一路、井上碧衣、宇田川啓仁、大久保百華、川上聡介、川本優心、国吉康汰、倉谷凛音、酒井心望、澤田大輝、下山結愛、関塚史、竹尾こむぎ、飛田千怜、中村來未、名倉奈々、成原慎太郎、西川和希、沼田尚大、野田蒼太、樴場千子、馬場結月、原寛汰、原田夏緒、平野里音、藤沢功香、堀田稜真、松本優香、吉田幸祐、李承恩

**B部門**
浅見優奈、阿部達也、伊東琥子、垣花ゆう、熊谷綸乃、渋田見奏穂、関口遼香、瀧澤美羽、中島凜愛、西澤純咲、松尾美里、松本未莉、梁元悠汰、山下祐梨子、若田香澄

## ◉高校生奨励賞

**A部門**
岩倉京花、岡田紗英、春日遥、木下真歩、國吉穣、坂本珠梨、重田愛、徐涵如、鈴木望愛、髙尾裕美、寺本碧季、土岐鈴佳、豊沢日乃梨、服部奈々子、細谷美咲、堀内由佳

**B部門**
井川響、石濱友昭、一戸夏美、伊與田ちはる、江守楓、大久保希咲、太田篤志、大野真依、兼松和寿、木村凪沙、國吉穣、久保田桃香、斉藤衿亜、坂上博紀、佐藤和夏、佐野美咲、篠﨑舞子、篠原柚、柴瑶恵、杉山沙哉佳、関野朱里、辻本岳人、土渕安美、土屋有花、徳永遥杜、生川満久、林茉美子、深澤萌々花、藤巻拓也、細谷美咲、増田琴理、増田悠菜、ミゲル、溝上詩織、森蒲公英、森島千景、和佐田ひと実、和多田優子

## ◉高校生秀逸賞

**A部門**
青木千枝、石川拓実、石崎和佳子、板垣順子、猪股由惟、衛藤恵美、大久保紗羅、小川真歩、賀島亜理紗、加藤紗椰、菅野衣香、木村凪沙、児玉有香、斉藤里奈、酒井みく、佐藤歩実、島上真帆、高柳芽依、滝沢樹、竹原加穂、永関怜奈、中山可奈子、丹羽柊香、野中すみれ、菱沼範子、平出萌杜、萬徳真乙、山本早耶香、米田真由香、和田桜華、渡辺莉奈

**B部門**
秋山智己、阿部悠梨花、荒井萌香、安藤有希、飯田萌、伊木皓亮、石井晶大、石井友和、石川和哉、石川英恵、磯みづき、一ノ瀬紗佳、伊藤祐希、伊藤凜花、井上辰哉、井口純華、猪股由惟、岩田愛美、岩渕和可、上地舞花、上野仁嵩、上原なつめ、上松日、宇都宮悠、大野羽蘭、大村奈々美、小笠原章弘、岡島ななみ、岡元志保、尾崎文都、小田竜一、小野七未、小野寺希、大日方伶名、澤潟亜衣、小柳実希、柿沼舞、高橋香帆、加藤百合子、鎌田顕世、神尾明弘、萱野里奈、菅野衣香、木田みのり、喜藤千夏、宜保結子、國吉穣、桑夢実、児玉彩、後藤佑輔、小林美香、小林眞菜子、近藤楓、齊藤絢音、酒井菜智、榊由衣、佐々木咲彩、佐々木光春、佐々木美雪、佐々木理那、佐田あかね、佐田なつみ、佐藤歩実、佐藤愛実、佐藤和夏、澤田亜由美、繁田芽乃亜、志田日葉里、島田光、島袋博菜、島屋拓海、庄司あずさ、定塚珠来、白鳥千陽、末吉麗奈、鈴木彩夏、鈴木さくら、鈴木里菜、鈴木瞭、曽我部敬介、高橋優貴乃、瀧澤奈津美、竹下祐加、竹田彩夏、竹中満理奈、田島桃花、田代聖奈、辻ひなの、對馬華恋、寺本碧季、永井魁、長澤亜優、永野弥奈、中野里保、中村綾香、中矢温、南雲拓斗、奈良乃恵瑠、名和俊人、西村紅音、野口麟、野路晴香、野村知里、橋本夏芽、蓮井惟歩輝、長谷川詩織、長谷川侑美子、馬場一郎、原田洸、比嘉健大、檜垣宗一郎、日原彩乃、兵頭正子、平井千裕、深澤亜依、福山日梨、松田脩吾、松永琴子、松林実花、松林結花、松本純香、松本朋子、真鍋開人、丸山晴菜、萬徳真乙、三上希子、三毛朋香、ミゲル、蓑口雄大、三輪天音、村田輝道、村中春香、村松涼花、村松智絵、村山和奏、望月望、望月歩未、望月玲那、安池菜緒、八塚大輝、矢野志朋、矢野未菜、山﨑咲香、山﨑水月、山田茉弥、山本夏希、山本野乃佳、ユクセ、芳野竜太郎、米田真由香、若田彩乃、和田優香、渡邉由芽

# 第33回 産経国際書展“新春展”募集要項

## 開催要項(概要)

【名　　称】 第33回産経国際書展“新春展”
【主　　催】 産経新聞社　産経国際書会
【会　　期】 平成29年１月25日(水)～２月６日(月)　１月31日(火)は休館日
【会　　場】 国立新美術館
〒106－8558　東京都港区六本木７－22－２　TEL03－6812－9900　FAX03－3405－2531
【入 場 料】 500円　(身体障害者と付添いの方、65歳以上、および学生は無料)

## 出品要項(概要)○申込締切:平成28年10月28日(金)　○搬入締切:平成28年11月18日(金)

**《新春展Ⅰ　代表展》**
【出品資格】産経国際書会の下記会員
最高顧問、名誉顧問、常任顧問、顧問、客員顧問、参与、副会長、名誉理事長、理事長、理事長代行、副理事長、常務理事、専管理事、理事、監事、評議員
【寸　　法】タテ８尺ヨコ６尺(242㎝×182㎝)以内。全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。篆刻、刻字、巻子・折帖作品は上記サイズ外。
【出 品 料】５万円
【特　　典】作品を掲載した産経国際書会代表展の図録を１冊進呈(希望者には５冊まで)
【搬　　入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料を添えて指定表具店へ。

**《新春展Ⅰ》**
【出品資格】審査会員、無鑑査会員
【寸　　法】タテ８尺ヨコ６尺(242㎝×182㎝)以内。全紙以上。篆刻、刻字、巻子・折帖作品は上記サイズ外。
【出 品 料】３万円
【特　　典】作品を掲載した産経新聞「産経国際書展新春展特別版」発行し、希望者には５部まで進呈
【搬　　入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料を添えて指定表具店へ。

**《新春展Ⅱ》**
【出品資格】満18歳以上(産経国際書会会友含む)
【寸　　法】半切タテヨコ(135㎝×35㎝)、全紙２分の１(79㎝×68㎝)
※搬入は未表装で出品票に必要事項をご記入の上、産経国際書会事務局まで。団体の場合は一括出品をお願い致します。
※出品作品はすべて展示します、但し、規定寸法と異なる場合には展示できない場合はありますのでご注意ください。
【出 品 料】２万円
【審　　査】12月上旬に産経国際書会役員による公正な審査を実施します。
【　賞　】会友の部：会友奨励賞(賞状、副賞)
公募の部：産経新聞社賞(賞状、副賞)
奨励賞(賞状、副賞)
【特　　典】①作品(半切タテのみ)を軸装にして返却します。(表装料はいりません)
②産経新聞社賞受賞者が平成29年７月に行われる第34回産経国際書展に公募で出品する場合は出品料を無料とします。
【贈 賞 式】平成29年１月26日(木)午後４時～

**資料請求先・作品送付先**
〒100－8079　東京都千代田区大手町１－７－２　産経国際書会　新春展Ⅱ係
問い合わせは　TEL03－3275－8902　FAX03－3275－8974

**祝賀会**　◎平成29年１月26日(木)午後４時～　◎会場　乃木会館　４階「豊明」　◎会費　１万円

# 書展トピックス

## 望月暁云傘寿記念書作展

望月　暁云

会期●平成28年4月6日（水）～4月10日（日）　会場●松戸市文化ホール

傘寿を記念し、２回目の個展開催。新作80点を出展、併せてＮＨＫドラマ書道指導34年の歩みを展示させて頂きました。ドラマは34年間で121本を担当、その内容も展示したところ、ご来場の皆様も大変珍しがられ、総勢540名のご来場を賜りました。誠に有難うございました。なお今後も更に精進して参る所存でございますので、どうぞ宜しくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 公募第40回國藝書道院展

齋藤　香坡

会期●4月22日（金）～26日（火）　会場●鎌倉芸術館ギャラリー

第40回國藝書道院展が、発祥の地、大船松竹撮影所跡地の鎌倉芸術館に於いて開催。その折りご参観いただきました方々には、交通上やや不便さがあり、申し訳なく思っております。会場使用上は、作品飾り付けなど安易さがあり、良き評価を頂きほっとした次第です。次回展は別会場となります。

## 喜寿記念第6回鴨田茜竹書展

会期●5月17日（火）～22日（日）
会場●銀座鳩居堂

鴨田　茜竹

予後の体調不良ではあったが、新旧作品及びＹ社のＴシャツ書ブランドの作品を併せた展示が観て楽しいと好評で、盛会裡に終了した。会期中、石巻商高の佐藤柚希君が来廊、東日本大震災当時の自作詩「女川」の鴨田書（第29回産経新春展出品）を観覧。卒業後は公務員となり、当地の人々との新しい女川作りに貢献したいという柚希君の前途を祝し、彼のモットー「更に向こうへ」を揮毫贈呈できた事は、近来この上ない喜びでもあった。

## 木住野栄・大久恵華・早坂喜伊3人展

早坂　喜伊

会期●6月28日（火）～7月3日（日）　場所●銀座大黒屋ギャラリー7階

第９回青成会書展（６階ギャラリー）と同時開催となった３人展は一昨年に続き２回目。各自８～９点の出品で計25点の作品展示となった。平家物語等の古典から八木重吉、北原白秋等の現代詩を素材とした詩文書作が多く、禅語、唐詩とバラエティに富んだ作品群となった。会期中天候不順にもかかわらず書会の先生方はじめ多くのお客様で賑わった。

## 第45回墨林綜合書展

遠藤　乾翠

会期●8月3日（水）～9日（火）　場所●東京都美術館

この時期はやはり暑い。用意していたおしぼりがあっという間になくなった。

今、書道会が直面している課題―高齢者主力の問題は弊会も同じ。更には今後、隷・楷の伝統書中心の展示で良いのか。幅広い年齢層の出品者確保のため何をすべきか課題は多い。暑さにかまけてはおれない。これら課題に立ち向かわねばならないのである。多謝。

## 手島崇六名誉顧問と劉洪友客員顧問が外務大臣表彰を受賞

岸田外務大臣から賞状を
受けとる手島先生

手島崇六名誉顧問と、劉洪友客員顧問が、平成28年度の外務大臣表彰を受賞。７月20日（水）に、外務省の飯倉公館で表彰式が行われました。手島名誉顧問は、現代書道家として平成20年以降毎年「手島崇六海外展」を世界各地で開催し、日本の書の独創的な芸術美を世界に発信するとともに、文化交流を通じて各国との友好関係の深化に貢献したことが受賞理由です。劉客員顧問は、平成10年に中国書法学院を設立、書道を通じた日中間の文化交流に尽力してきたことが評価されました。

手島名誉顧問、劉客員顧問、おめでとうございます。

# アラカルト

## 第19回「公益信託國井誠海書奨励基金」

渡邉麻衣子

次代を担う若手書家を顕彰し、書の普及、振興並びに日本文化の向上発展に寄与することを目的とした第19回「公益信託國井誠海書奨励基金」顕彰式が５月16日（月）、東京・大手町の全国銀行協会銀行倶楽部で行われた。今回は、産経国際書会・会友のアラン・ロワ氏（誠心社所属）、角田大壌氏（淇水文会所属）が受賞。ロワ氏は、昨年の産経国際書展新春展で作品「道」が奨励賞を受賞。選考は、霧林道義（詩人）、青木利夫（毎日書道会編集主任）、角井博（筑波大学名誉教授）、吉井雄二（産経新聞社・産経国際書会会長代行）、田宮文平（書評論家）、渡邉麗子（誠心社会長・産経国際書会理事長代行）。

# 新旧会長代行挨拶

## 産経国際書会　元会長代行　吉井　雄二

「さよなら！」

６月24日より産経新聞社関連の㈱産経広告社に移り、業務に邁進しております。

産経国際書会の在籍３年４ヶ月間､本当にありがとうございました。感謝いたします。

最初は、何で何も知らない若造に偉そうなことを言われなければならないのか。多くの先生がそう思われたのではないでしょうか。産経国際書会創設時の先生方の“気持ち、心”には到底及びませんが、何とか書会を発展させよう、健全な、分かり易い会にしていこうと、一升懸命お酒を飲みました！飲ませていただきました！これで良かったの？

“書は人なり”多くの先生方の考え方に接することができ、何事にも変え難い財産を得ることが出来ました。やれなかったものも多々ありますが、なにとぞ、ご容赦ください。

今後のことを齋藤香坡先生流に言うと、産経国際書会会員並びに関係者だけのご健勝、ご健筆と各会、各社中、各団体だけの益々のご繁栄をお祈りいたしております。

## 産経国際書会　会長代行　福本（ふくもと）　雅保（まさほ）

「こんにちは！」

６月24日に、前任の吉井に代わって着任致しました。すぐに産経国際書展本展と贈賞式、ジュニア展の審査会、贈賞式、そして夏の研修会と、書会にとってもっとも大事な行事をこなすことになり、多くの先生方に十分なご挨拶もできぬまま時間が経過してしまいました。改めましてご挨拶申し上げます。なにとぞよろしくお願いいたします。

昭和59年に産経新聞入社後、主にサンケイスポーツの編集畑で過ごし、東京、大阪で合計４年間編集局長を務めました。直近はサンケイスポーツ代表補佐として新規事業を担当しておりました。左利きでもあり、書道の経験は正直ありませんが、この３か月、最高顧問、執行部の先生方とご一緒して、その精力的な活動ぶりに圧倒されると同時に、日本人にとっての書道の大切さ、書道振興の重要性を痛感しています。産経国際書会の発展のために全力を尽くしますので、なにとぞよろしくご指導のほどお願いいたします。

# 各会書展お知らせ（産経新聞社後援）

〈平成28年7月～平成29年1月〉　①会期　②会場　③代表名

## 9月

**第33回日本綜合書作院展**
①9月6日(火)～9月11日(日)
②大阪市立美術館
③篠原　秀朋

**「F2016展」vol.1**
①9月16日(金)～9月18日(日)
②京都万華鏡ミュージアム・姉小路館
③諸留　大穹

**第30回国際芸術文化交流展**
①9月19日(月)～9月24日(土)
②韓国ソウル仁寺洞、美術世界ギャラリー
③鎌田　悠紀子

**小川瓦木回顧展―思い出のコレクション―**
①9月22日(木)～10月23日(日)
②白井市文化センター　郷土資料館展示室
③小川　艸岑

## 10月

**第48回一煌会書展**
①10月3日(月)～10月5日(水)
②銀座洋協ホール
③石川　天瓦

**第2回方琥書院書画展**
①10月6日(木)～10月11日(火)
②茨木市立ギャラリー
③久田　方琥

**第28回書心会書展**
①10月7日(金)～10月9日(日)
②所沢市民文化センター　ミューズ
③加藤　深流

**埼玉県芸術文化祭2016協賛事業**
**熊谷文化祭**
**第66回公募洸風会書道展**
①10月8日(土)～10月10日(月)
②熊谷市中央公民館
③岩下　鳳堂

**第7回明扇書藝會発表会**
①10月8日(土)～10月10日(月)
②長野県県民文化会館(ホクト文化ホール)ギャラリー
③長谷川　明扇

**第29回研友社展**
①10月11日(火)～10月16日(日)
②東京銀座画廊美術館
③田中　鳳柳

**第22回龍峡書道会役員展**
①10月11日(火)～10月16日(日)
②東京鳩居堂3F
③林　龍成

**2016菽水清秀書展**
①10月18日(火)～10月23日(日)
②東京銀座画廊美術館
③今田　篤洞

**第37回雨心会書展**
①10月19日(水)～10月23日(日)
②飯能市市民活動センター　7Fギャラリー
③貝瀬　芳雨

**第41回煌心同人書展**
①10月19日(水)～10月23日(日)
②銀座かねまつホール　5F
③松﨑　龍翠

**遊心書道会展**
①10月21日(金)～10月23日(日)
②広島県民文化センター　第1、第2、第3展示室
③大庭　清峰

**第32回瑤樹会書展**
①10月27日(木)～10月30日(日)
②フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ
③岡村　公裕

**細越玉蓮・髙野彩雲　二人展**
①10月28日(金)～10月30日(日)
②八戸ポータルミュージアムはっち広場
③佐々木　月花

**2016年誠心社現代書展**
①10月30日(日)～11月6日(日)
②東京都美術館
③渡邉　麗

## 11月

**書・墨・アートVol.7 渡邉 麗展**
①11月9日(水)～12月4日(日)
②座・高円寺
③渡邉　麗

**第29回日書美公募展**
**第29回日書美学生公募展**
①11月12日(土)～11月13日(日)
②岸和田市立文化会館　展示場
③樽谷　龍風

**第38回東西書展**
①11月16日(水)～11月20日(日)
②日本橋　好文画廊
③伊藤　欣石

**第33回記念CMO展・近畿席書大会**
①11月19日(土)～11月20日(日)
②藤井寺市民総合会館
③正川　子葉

**第45回千墨書道展**
①11月23日(水)～11月28日(月)
②品川区民ギャラリー
③近藤　豊泉

**書道五月女紫映社中展**
①11月27日(日)～12月3日(土)
②有楽町交通会館　ギャラリー2F
③五月女　紫映

**福山市制100周年協賛**
**第44回土筆会書道展**
①11月29日(火)～12月3日(土)
②ふくやま美術館シティーホール
③上村　陽香

**遠藤乾翠の個展　乾翠のこんにったⅦ展**
①11月29日(火)～12月4日(日)
②銀座　鳩居堂画廊3F
③遠藤　乾翠

**第22回秋桜会書展**
①11月29日(火)～12月4日(日)
②銀座　大黒屋ギャラリー
③鎌田　悠紀子

**心芸墨美作家協会　2016選抜展**
①11月29日(火)～12月4日(日)
②セントラルミュージアム銀座
③岩浅　写心

## 12月

**第62回あしで會選抜書作展**
①12月9日(金)～12月11日(日)
②尼崎市総合文化センター　美術ホール5F
③今口　鷺外

## 〈H29年〉1月

**第33回雅誕会書展**
①1月4日(水)～1月8日(日)
②東京銀座画廊・美術館
③伊藤　泰子

# 追　悼

次の先生方が黄泉につかれました。
本会でのご活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。（敬称略）

名誉顧問　**三宅　剣龍**（平成28年７月）　　顧　　問　**佐藤　静香**（平成28年７月）
会　　友　**冨田　道夫**（平成28年５月）　　会　　友　**石田　緑峰**（平成28年６月）

## 編集後記

会報は今号よりＢ５版となりました。より大きな写真、記事でたのしんでいただければと思います。

関東地方は遅い梅雨明けと共に猛暑となり、その暑さの中での第33回産経国際書展が東京都美術館で開催されました。回を重ねるごとに落ち着きと確かな力量を感じさせる、素晴らしい作品群でした。会期中のギャラリートーク、講演、揮毫会と魅力的なイベントで、熱心に大勢の方々が参加されました。

第33回展の大賞を受賞された先生方、誠におめでとうございます。ますますのご健筆をもって指導、育成にご活躍されることを願っております。

贈賞式、祝賀会では高円宮妃久子殿下の御臨席を賜り、華やかな中にも尊厳に満ちあふれた会場は、大勢の方々が参加されて大盛況でした。

また、ジュニア書道コンクールも年を追うごとに盛況を極め、将来の産経展を担うであろうと、頼もしい姿に新しい風を感じました。次年度から産経展とジュニア書道コンクールとが、同じ会場で同じ時期での開催となります。身近な一体感をますます深めることと思います。

書展はこれから地方に舞台を移します。地方の方々が待望の素晴らしい開催となりますよう、心よりご盛況をお祈り申し上げます。

これからも、会員皆様の熱意で、ますます書会を盛り上げて行きたいと思います。

（髙頭子翠）

（会報編集委員／髙頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邉麻衣子）
表紙：題字揮毫は風岡五城理事長

**編集・発行** 平成28年９月号
〒100-8079　東京都千代田区大手町1-7-2
産經新聞社事業本部内
**産経国際書会事務局**
TEL:03(3275)8902　FAX:03(3275)8974
http://sankei-shokai.jp/
https://www.facebook.com/sankeishokai

**お願い**

**会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願い致します。**